

水

特定非営利活動法人 ウォーターエイドジャパン



世界では、現在も約6億5,000万人の人が安全な飲み水を手に入れることができず、約23億人はトイレを使うことができない状況にあります。私たちは、こうした地域に安全な水と衛生的なトイレを届けたり、人々の衛生に対する意識の改善を支援したりすることを目的に活動しています。

教材を開発したり、ディスカッションをリードしたりしながら参加者の理解を促しています。

また、他のNGO団体との共催で「自ら考える未来のコミュニティーSDGsの上手な使い方」と題したセミナーとフィールドワークも実施。参加者の中には、町づくりや日本の水道の未来に

高い関心を持つ人も多いようです。ただSDGsを勉強するのではなく、フィールドワークを通じて国内の水利用の現場に触れる中で、SDGsが掲げる目標を自分たちの町づくりの「物差し」や「点検項目」として使うことができないうか、参加者と共に考える機会となっています。

水を切り口に持続可能な未来を考える



フィールドワークでは、地下水を熱源として利用したビニールハウスなども見学する

世界の水を取り巻く問題は、私たちの生活と無縁ではありません。なぜなら、日本が海外から輸入している食料の産地や製品工場では、水を使わない所はないからです。私たちは、輸入品を通して、時には水不足の地域の水をも使っていることとなります。国内でも、下水道設備の老朽化や人口減少による水道事業の継続不安など、水をめぐる課題は少なくありません。

ウォーターエイドが実施している学校での出前授業や市民向けのイベント、セミナーは、こうした現状を知り、行動につなげてもらうための啓発活動です。ボランティアメンバーと協力して、水問題を分かりやすく伝える



企業向けに「グローバル人材育成プログラム」を実施し、国際協力の潮流やSDGsを紹介した

**SDGsに取り組み
NGOを応援、「つなぐ」**

現在、日本には400以上の国際協力NGOがある。「国際協力NGOセンター(JANIC)」は、これらの団体同士をつなぎ、政府や企業との対話や市民のNGO理解を促進するネットワーク組織だ。NGOが活動しやすい社会をつくり、より効果的に力を発揮できるよう支援を行っている。

これまで開発途上国では、国際社会が協力して援助に取り組んだことで、極度の貧困や飢饉が改善してきた。その半面、環境や格差、人権など、新たな課題も数多く浮上している。

援助の最前線で活躍するNGOは、現場で実際に起きていることを伝え、問題を提起できる立場にある。JANICは、SDGs採択の過程でも、現場の声をすくい上げて国際機関や政府機関との議論の場に届けてきた。

開発途上国の問題だけでなく、世界の課題に挑戦するSDGsを達成するために、あらゆる人を巻き込んで、それぞれが問題意識を持って取り組むことが重要になる。JANICでは、国際協力NGOのネットワークを生かし、市民や企業にSDGsを周知し、協働していくために活動を展開。世界共通の目標であるSDGsを、日本国内の社会や経済の課題と関連付け、共に問題解決を目指している。

広げよう、身近な取り組み!

「持続可能な開発目標 (SDGs)」が目指すもの。それは、開発途上国の問題だけでなく、環境や暮らしに関する国際社会全体の課題の改善だ。身近な課題に目を向け、まずは国内でできることから取り組んでみよう。



高齢化

特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ (NALC)



私たちは、自立・奉仕・助け合いをモットーに、高齢化社会にふさわしい地域社会づくりを推進しています。もともとは、定年を迎えた人が生きがいを持って暮らせるようにと考えて活動を始めました。次第に、その手段として、余暇を利用したボランティア活動が活発化し、現在のように、中高齢者がお手伝いの必要なお年寄りの家事や外出を介助したり、庭木の手入れなどを行ったりするようになったのです。

現在、NALCは全国に約18,000人の会員がいます。会員がこの制度を利用すれば、自分自身の老後のために点数を貯めておけるだけでなく、その地域のNALC会員にお願いすることもできるのです。この制度は、海外にいる日本人駐在員の間でも評判を呼び、現在はイギリス、アメリカ、

スイスの3つの海外拠点でも日本人を中心に活動が広がっています。定年を迎え、新たな生きがいを求めている人々の活力を借りて、困っているお年寄りをお手伝いするのが、私たちの考える高齢化社会を生きる知恵です。ぜひアジアなどでもこのような活動を展開し、「助け合い」の輪を広げていけたらと思います。

特徴ある取り組みとして「時間預託制度」が挙げられます。これは、ボランティアに参加した人が、活動に従事した時間を1時間につき1点として「貯蓄」しておき、自分が困ったときには、その点数を利用して支援が受けられるというものです。



特技を生かしてグループホームで書道教室を開いた

高齢化社会に「助け合い」の輪を



時間預託制度を活用したボランティアで、高齢者の介助をする人